

## 好きな遊び みつけた!!



- 食事、排泄、衣服の着脱などもほぼ自立できるようになるが、個人差があり甘えたい気持ちも強い。
- 基本的な運動機能が伸び、外で十分に体を動かしたり、さまざまな遊具を使った運動や遊びを楽しむようになる。
- 自我がよりはっきりしてくるとともに、友達との関わりが多くなる。実際には、同じ場所で同じような遊びをそれぞれが楽しんでいる平行遊びであることが多い。
- 大人の行動を観察して模倣し、日常生活で経験したことをごっこ遊びに取り入れるようになる。
- 話し言葉の基礎ができ、盛んに質問するなど知的興味や関心が高まる。
- 大人の話を聞いて、予測し、期待をもって行動できるようになる。
- 身近な自然物に興味をもち、触ったり、集めたり、見立てたりして遊ぶようになる。
- 絵本やお話に興味をもち、その場面や楽しい言葉のリズムを模倣したり、再現して遊ぶようになる。

4月、5月頃の新入児には、自分の居場所を見つけて安心して過ごせるようにするなど、月齢差や保育経験の差を考慮して接する。

### ねらい

- 養護
- 教育

- 一人ひとりの子どもの
- 保健的で安全な環境
- 子どもの気持ちや考え
- 生活に必要な言葉が
- 食事、排泄、衣服の着
- 身近な友達と関わって
- 友達とのぶつかり合い

思いや欲求を十分に受け止め、生命の保持と情緒の安定を図る。  
をつくり、体の状態を常に観察し、病気や体調の変化に気付くなどして、快適に生活できるようにする。  
を受け止め、自発的な行動や探索意欲が高められるようにする。  
ある程度分かり、したいこと、してほしいことを言葉で表す。  
脱など自分でできたことを喜ぶ。  
遊ぶことを楽しむ。  
の中で、保育者との信頼関係に支えられて自分の思いを伝え、相手の思いに気付こうとする。

### 内容

### ■ 環境構成 ● 援助

#### 健康

#### 自分でできたよ!

- 毎日の生活の中で自分でできることは自分
- 走る、跳ぶ、投げるなどの動きや、さまざまな

でしようとする。  
遊具を使った運動遊びを楽しむ。

#### 人間関係

#### 友達というって楽しいな!

- 保育者に親しみをもち、安心して生活する。
- 友達とごっこ遊びなどを楽しむ。
- 集団での生活の仕方に慣れ、きまりがあるこ
- 年上の友達に憧れの気持ちをもったり、模

とに気付く。  
做して遊んだりする。

#### 言葉

#### いっぱい聞いて!

- 自分の思ったことや感じたことを言葉に表
- 保育者に、したいこと、してほしいこと、困っ
- あいさつや返事など生活や遊びに必要な言
- 絵本や紙芝居などの楽しさや面白さが分か
- ままごとやごっこ遊びの中で日常生活でよく

し、保育者や友達との言葉のやり取りを楽しむ。  
たことを伝えたり、「なぜ? どうして?」などの質問  
葉を使う。  
り、イメージをもって聞く。  
使う言葉を楽しんで使う。

#### 環境

#### なぜ? どうして?

- 身近な動植物に触れ、親しみ、大切にしよう
- 紐通しや、パズル、構成玩具(ブロックや積
- 紙や粘土などいろいろな素材で遊ぶことを
- 生活や遊びの中で、身の回りのものの色、

とする。また、自然など身近な事象に驚き、関心を  
み木)など、さまざまな玩具で指先を使って遊ぶこ  
通して、丸める、破る、ちぎるなど、手指のさまざま  
数、量、形などに興味をもち、違いに気付く。

#### 表現

#### 好きな遊びをいっぱいしよう!

- 音楽に親しみ、聞いたり、歌ったり、体を動か
- さまざまな素材や用具、玩具を使って、自由
- また、構成玩具(ブロックや積み木)でも、自分
- 何かになったつもりで遊んだり、動物や乗り

したり、楽器を鳴らしたりして楽しむ。  
に絵をかいたり扱ったり形をつくったりして遊ぶ。  
のイメージしたものをつくって遊ぶことを楽しむ。  
物などの動きを模倣したりして、体で表現する。

● 保育者の温かいまなざしのもと、「自分でやってみよう」という気持ちを大切に、生活習慣が身に付くようにする。また着替えの際は、周囲から見えないよう配慮し、一度に全ての服を脱がないよう知らせていく。  
● 自分で考えて行動できるように先取りせずに見守る。  
■ サーキット遊びや固定遊具、三輪車などを使用した全身運動を取り入れ、運動機能の発達を促せる活動につなげていく。

● 自我がはっきりしてくる時期であるが、子どもの思いや要求を丁寧に聞き、周りの状況や相手の気持ちを知らせて気付かせるようにする。  
■ 友達と遊びの場を共有する中で、興味、関心をもち、一緒に遊べるよう十分な数の玩具を用意する。

● 保育者や友達の言葉に興味、関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりできるようにする。  
● 安心できる大人に尋ねたり、興味があるものを通して新しい言葉を覚えたり、言葉を交わす心地よさを十分に経験することを大切にすること。  
● けんかなどのトラブルの時は、互いの気持ちを十分に受け止める。  
● 一人ひとりの表現を丁寧に受け止め、したり、見たり、聞いたり、考えたりしたことを、自分なりに言葉で表現できるようにする。

■ イメージが広がりやすくなるように、発達段階や季節に応じた絵本などを準備し、驚きや発見につなげるようにする。  
● 好きな遊びを通して、友達と遊んで楽しい経験が積み重ねられるようにする。  
■ 製作や自然物での遊びを楽しむ中で、折り紙やどんぐりなどを使い、色や数の選択をしたり、形で分けたりするような活動を取り入れ、違いに気付けるようにする。  
● したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりできるようにする。

■ ● 繰り返し遊べる素材や用具を数多く準備し、集中して取り組めるように見守り、必要に応じて援助しながら、用具の扱い方などを知らせる。  
■ ● 生活経験を生かしたごっこ遊びを通し、友達と共感し合い、イメージ力が育つよう、いろいろな見立て遊びができるようなもの(お手玉、箱、紙皿など)をそろえておく。

### 家庭との連携 地域との関わり

保護者と直接話したり、お便りなどで遊びや生活を通した育ちを具体的な保護者に子どもの育ちを丁寧に伝え、保護者との信頼関係を築く。②  
懇談会など、保護者同士が子育ての喜びや悩みを気軽に話せる機会を設け散歩などを通して地域の人にあいさつをしたり、いろいろな場所を知ったり

事例で伝え、一年間の育ちを保護者と共有できるようにする。①②③

るようにする。④  
して、親しみをもてるようにする。(あ)(え)

※数字①～④は全体的な計画の「家庭との連携」を具体的に表したものです。

※ひらがな(あ)～(お)は全体的な計画の「地域との関わり」を具体的に表したものです。



# 子どもとSDGs【3歳児】



自分のことを伝える、  
相手の話を聞こうとする



遊びの中で知り得たことや経験していることなどを自分なりの言葉で伝えようとしたり相手の考えを取り入れようとします。知識を共有するパートナーシップの精神が芽生えます。

さまざまな  
違いのある  
相手の存在を  
知る

身近な保育者や友達に親しみをもち、人と関わることの楽しさを感じています。園や身近な地域でも、いろいろな国、文化、言葉、性別などの違う人と出会います。お互いのことを知り、相手を大事に思う気持ちは、平和な世界をつくる第一歩です。



周りの環境に自分から関わり、  
発見を楽しんだり、考えたりする



飼育物や植物の生長に興味をもち、じっくりと観察したり、世話をします。保育者は必要な用具を準備したり、絵本や図鑑を用意し、子どもの好奇心や意欲が充足できるようにしています。

身近な動植物に触れたり、  
親しみ、生命の大切さを知る

生き物に接することは、生態系や生き物を取り巻く環境に関心をもつことにつながります。乳幼児期は、倫理観や想像力が育まれる時期です。子どもが心を動かし、植物や生き物が育つプロセスに想像力を働かせる経験を積み重ねることは、さまざまな事象や多種多様な人々に対して、想像力をもって行動することにつながっていきます。



誰もが住みやすいまちにしよう  
安心を土台に、  
コミュニティを広げる

緑地や公園は人々の憩いの場所になったり、火事の時には火が広がるのを防いだり、災害時の避難場所になるなど、人々が安全に暮らすための役割を担っています。子供たちは大好きな公園で、楽しみながらその役割に触れることができます。



園外へと散歩にでかけることは、五感を使って自然の事象を感じたり、同じ地域で生活する人との出会いのひとときとなります。大好きな公園で遊ぶと心も体も解放され、遊び方が広がります。地域での豊かな出会いが、「自分の暮らすまちが好き」という気持ちにつながっていきます。